



S.Tomohiko

平成23年5月25日の幹事会

午後4時～5時 みつわ会コーナー

(出席役員)

大久保、柿沼、加藤、川口、菊池  
 斎藤(勝)、佐藤(友)、嶋原、清和、  
 千葉、星。(アイウエオ順)



S.Tomohiko

議 題

① 今年度の支部総会について

10月あたりに開催することでどうか。その訳は、出欠確認や資料の準備作業、会場の手配等で開催まで2ヶ月弱はかかる。夏場の節電事態を避けるとすれば涼しい時期がいい。それにホテルや会場では修繕作業が入らない所もあり、料金、内容その他余震(!)も含めてまだ不透明な部分が残る。懇親会抜きの総会を望む会員は皆無に近いが、世間はまだ多勢で杯を挙げるというムードではない。

② 例会(臨時昼食会)について

未だ、建物や動産が元通りではないかもしれないが、例会サイクル月とは異なる臨時ということで、支障の無い会員だけでも集まって無事を確認し、また非常時の体験を披露しては。数百年か千年に一度とも言われる大変動に身を置いたのだから。総会や他の行事等についても平常時とは違う妙案が出るかもしれない。

③ 支部年会費徴収方法について

現在、徴収方法は総会出席時の現金、郵便振替、不定期現金、のそれぞれ一年分一括徴収になっている。特に不定期の納入は会員以外の「人手伝い」になる場合もあり、小額とはいえ故意でなくても事故につながる懸念も無いとは言えず、収める側も、会計方も気遣いが大変なので方法を考えなければならない。では場所を変えてみて・・・

・・・、国分町の居酒屋「赤提灯」で座りなおしましたが、氣勢が上がるだけで、これとって良い案も無いままそこを出ると、遅い日没の街はまだ明るい宵の口でした。

6月の行事

	支部	みちのく損保
6月23日(木)	昼食会「しゃぶ禅」12時※	
24日(金)		みちのくゴルフ
29日(水)		料理教室

※出席の連絡を6月16日(木)までに友彦さんに。(022-379-5287)

◎支部ゴルフも予定していますが、後ほど連絡があります。

白井さんの人物往来(続4) 星利夫

12月29日には、見習士官昇格。曹長の襟章と士官勤務の腕章をつけて、卒業昼食会に臨みましたが、お膳には尾頭付きの肴が付き、お酒は一杯の乾杯用だけ、しかしその味は何にも代えがたい美味なものであったそうです。幹部候補生の進級は実に快速そのものでした。

この予備士官学校時代に、特に印象に残ったものは、T区隊長の訓示でした。「弾は前から来るばかりではない。後ろからも飛んで来る。」及び、「肉体が限界に達したとき、一難去って九十九難あり。」の二つでした。鮮明に脳裏に刻み込まれ、その後の軍人生活、そして除隊後の一般社会人時代を通して、これにより、度々起死回生の転機を得ることができました。

予備士官学校の同期生の仲間には、東北のみならず、第7師団北海道部隊からの配属もあり、卒業後の転属命令は、原隊復帰、あるいは新任地へと3分の2が外地(戦地)、3分の1が内地であり、戦局ただならない当時、運命の分かれ目ともいえるものでした。その中に、奇しくも戦後お会いして久闊を叙し得た人もおりましたが、戦死などにより消息不明者が大部分でした。

予備士官学校を卒業して原隊復帰で白井曹長は、所属16部隊が盛岡から秋田に移動していたため、列車による赴任となりましたが、仙台より1等車を借り切りの特別列車で、途中の北上駅(黒沢尻駅)で30分の停車の間、ご両親や近所の知人等多くの人と交歓し得たのは破格の待遇でした。秋田着任後、明けて昭和19年、初の正月

を迎えて冬季演習、新兵教育、週番勤務に日を送ることになります。

翻って昭和18年の戦況は如何かと云えば、2月のガ島撤退後の4月18日、山本五十六連合艦隊司令長官が前線で戦死しております。これは、海軍最高の暗号がすでに昭和17年6月5日のミッドウェー海戦の頃には完全に解読されており、日本海軍の計画が殆んど読まれていたと云う実態にあったからです。日米間に、開戦のやむなき時は、緒戦に於いて敵に徹底的な損害を与えて、時を見て早期に講和を計るべしとの信念をもちながら、ハワイ大作戦を成功に導いた後、そのまま南進作戦を継続している最中での戦死です。そして北方作戦では、5月29日にアッツ島での玉砕がありました。このように日本軍は、この年じりじりと後退に後退を重ねていました。

昭和19年4月1日、秋田勤務の白井曹長は、幡12161部隊(電信25連隊盛岡)に航空通信隊士官要員として転属となりました。久しぶりの盛岡で、電線や電柱の敷設・架設訓練そして航空通信演習等に精励しましたが、当時の沼宮内町(現在の岩手町)での訓練中、宿泊先の旅館では、御苦労さまとのことで学校の先生達が夕食時にお酒の差し入れなどして歓待されたのが思い出されるということです。そうこうしている中に7月1日に少尉任官となりましたが、第1次任官の同僚約10名は台湾に出征しております。

白井少尉は、士官となって、営外居住で当時閑静な住宅街、菜園に下宿をされていましたが、或る日道で会われた女性が生涯

の伴侶として相応しいと心に決め、直接御自宅訪問の上結婚のお申し入れをされたそうです。まさに電撃的行動です。ほどなくご本人、ご両親のご承諾が得られ、8月に御婚約が成立しました。

然し、翌月の9月1日に、師579部隊航空通信隊（新潟県高田市）第1中隊の教官としての転属命令を受けました。着任は、単身で、航空通信隊の教官としての勤務は、戦闘機飛2号のとの無線教育であった。将校暗号教育があり、長野県の小諸市での演習中、申請中の結婚許可通知が、あり、急遽11月3日に門岡で仏前結婚式揮を挙げた。そして20年2月に本部副官に任命されました。

この間の米軍との戦況は、昭和18年（1943）末より19年にかけて、大機動部隊を編成し、計16隻の航空母艦を中心とする米軍団が、フィリピンを目指して、先ず強襲したのがサイパンでした。昭和19年6月19日、日本の連合艦隊は、主力の航空母艦9隻の総力を挙げて、米軍15隻の空母との決戦に挑みましたが、日本軍の空母3隻が撃沈され、航空機395機のほとんどが全滅しました。惨憺たる日本海軍の敗北です。続いて7月7日サイパン島が玉砕しました。

昭和18年の1月14日モロッコのカサブランカでアメリカのルーズベルトとイギリスのチャーチルが会談をして、日独伊は、無条件降伏以外、戦争をやめることが出来ないと宣言するほど戦況は、米英連合国の優勢に傾いておりました。ヨーロッパ戦線におけるドイツ軍も連合軍に押しまくられ、敗退に次ぐ敗退の情勢にありました。

昭和18年の末頃インドの主要都市インパール攻略作戦と云う起死回生を目論むビルマ方面軍の無謀な作戦が立てられ、昭和19年3月にその火蓋が切られましたが、4月末には日本軍の戦力が40%前後に低下し5月には参謀本部も撤退命令を出さざるを得ませんでした。

昭和19年4月1日、秋田勤務の白井曹長は、幡12161部隊（電信25連隊盛岡）に航空通信士官要員として転属となりました。久しぶりの盛岡で、電線や電柱の敷設訓練、架設訓練そして無線通信演習等に精励しましたが、当時の沼宮内町（岩手町）での訓練の宿泊先が旅館であり、御苦勞さまと云うことで、学校の先生達に夕食時にお酒の差し入れなどで歓待されたことが、戦時中ながら岩手の人情に彩られた思い出として今でも脳裏を横切るとのことです。

そうこうしているうちに、昭和19年7月1日、少尉任官となりました。第1次任官の同僚約10名は台湾に出征しております。

白井少尉は、士官となれば営外居住で、当時閑静な住宅街、盛岡の菜園に下宿をしていましたが、或る日、道で会われた女性が生涯の伴侶として相応しいと心に決め、直接御自宅訪問の上、ご本人、ご両親の御承諾を得て、目出度く8月に婚約をされました。然し、翌9月1日には、師579部隊航空通信隊（新潟県高田市）に転属、第1中隊の教官を命ぜられました。着任は単

身で、航空通信隊の教官としての勤務は戦  
 闘機飛2号の無線教育であった。将校暗号  
 教育があり長野県の小諸市での演習中、申  
 請中の結婚許可の通知があり、急遽、11  
 月3日に門岡で仏前結婚式を挙げることに  
 出来ました。20年2月に本部の副官とな  
 る。  
 これに先立つ昭和19年7月7日サイパ  
 ン島玉砕の後、18日東条内閣総辞職、小  
 磯国昭内閣成立。10月20日には米軍は、  
 フィリピン・レイテ湾上陸作戦を開始し、  
 日米双方が総力を挙げた史上最大の決戦が  
 行われ日本軍の完敗が決したのです。この  
 時に神風特攻隊の体当たり攻撃が正式の作  
 戦となりました。この年は、国民総動員令  
 が発令され、中学校上学年生は、軍需工場  
 へ、低学年生は農村へ動員されました。筆  
 者も、宮城県黒川郡富谷村（現在の仙台市  
 富谷町）での農作業に約1年間従事し、銃  
 後の農村生活の様子をつぶさに目にしまし  
 ました。  
 東京の上空にはサイパン島から発進した  
 B29が初めて姿を見せたのが昭和19年  
 11月1日でした。20年元旦早々から東  
 京には敵機襲来の警戒警報が鳴りました。  
 すでに20年2月4日から、英米ソ3国  
 のヤルタ会談が開催され、ソ連の参戦と、  
 日本の降伏後に就いても話し合いがなされ  
 ています。  
 20年2月に本部副官となった白井少尉  
 の主たる任務は、午後3時に会報（転属命  
 令）を出して伝達をすることです。その他、  
 空襲警報発令、地元の市議員との打ち合  
 わせなどの雑用が多かったそうです。8月  
 1日に中尉に昇進しました。  
 日本の参謀本部と陸軍省の首脳は、本土  
 決戦の完遂基本要項を2月22日から25  
 日にわたり合同会議で決定しております。  
 然し小笠原諸島南西の硫黄島での日本軍の  
 善戦も空しく米軍の手に落ち、米軍は、日  
 本主要都市の焼夷弾爆撃に主力を注ぐこと  
 になります。4月6日に戦艦大和の沈没、  
 ソ連の日ソ中立条約廃棄通告、4月7日鈴  
 木貫太郎（78歳の老体）内閣の成立、4  
 月28日ムッソリーニ死去、5月7日ドイ  
 ツ無条件降伏が相次ぎます。また継続して  
 いる沖縄戦では、6月22日、日本軍の壊  
 滅により終結した。7月17日から始まっ  
 たポツダムでのスターリン、トルーマン、  
 チャーチルは、協議の結果、7月26日に  
 日本降伏の勧告したポツダム宣言を発っし  
 ました。これを無視した日本に対して、広  
 島に8月6日原爆が投下されたのです。8  
 月9日に第2の原爆が長崎に投下されたの  
 です。最高戦争指導会議の紛糾の中で聖断  
 が下され、正式には、ポツダム宣言の受諾  
 通知は、8月14日午後11時にスイス、  
 スウェーデンを通じてなされたのです。  
 日本軍隊が解体されて、国内が混乱を極め  
 ていた中で、白井中尉がどのように転進を  
 遂げていくかは次号にしたいと思います。  
 なお日米戦争などについては、半藤一利著  
 の「昭和史、戦前編・戦後編」を主として  
 参照しましたことを追記します。